

栄養士の卵に「牛乳商品開発」と「酪農」の食育を実施しました

相模女子大学から伊勢原産牛乳プロジェクト（事務局：伊勢原市）に依頼のあった牧場体験が、令和元年6月28日、伊勢原市の(有)石井牧場（酪農）で、同大学管理栄養学科4年生9人を対象に「牛乳商品開発」と「酪農」に関する食育授業として実施され、当所もサポートしました。

はじめに牧場事務所にて、「いせはら地ミルク」の商品開発について当所からスライドにて概要を説明した後、石井敏貴社長から商品開発において苦労した点や取り組んで良かった点など実感の籠った臨場感あふれる熱い説明がありました。

つづいて靴カバーや手指の消毒等衛生対策をして牛舎に移動し、石井社長から酪農家の一日の作業について、エサやり、搾乳から始まり、ふん尿処理まで実物を見ながら説明がありました。また、飼料用とうもろこしを作付けている畑を見学し、畑に堆肥を投入し資源循環していることも理解してもらいました。その後、実際に学生たちに一人一人搾乳体験、エサやり体験、除ふん体験をしてもらい、いい汗を流してもらいました。



(写真) 左：商品開発説明、右：牧場見学
右下：エサやり体験

牧場体験終了後、事務所に戻り、よく冷えた「いせはら地ミルク」を飲んでもらい、食育授業の感想について意見交換を図りました。

- 「商品開発の苦労を聞いて、実際に牛に触れ合うことで、小学校以来飲めなかった牛乳がおいしくいただけた。」
- 「酪農家や牛に感謝しながら牛乳を飲んだ。そのことを栄養士として子供たちに伝えていきたい。」
- 「牛乳を飲めないけど、子供に牛乳を飲ませたいと思っているお母さんを対象に、こういう体験をしてもらうことで、牛乳が飲めるようになる子が増えるかもしれない。」



- 「こうした本物の牛乳の価格がなぜ高いのかを理解していただけるようなプレゼンをしてもいいのではないか。」等々、
実学を学ぶ管理栄養学科の学生ならではのすばらしい意見をいただき、石井社長ご自身のモチベーションの向上につながるとともに、今後の伊勢原産牛乳プロジェクトの活動に当たり大いに参考になるものでした。



(写真) いせはら地ミルクを飲む学生と先生方